

F 課外活動

1 ワークショップ

1. 1 Seminar for Intercultural Communication

—他国の実情を知り、英語で他者と共有する—（英語分野）

(1) 研究開発の課題（研究概要）

情報化社会の現在、容易に他国の情報を入手できるが、その真偽を測ることは難しい。実際に他国の人の生の声を聞いて異文化理解をすること、また今ある英語を使って、他者と情報を共有できる能力を身につけることは大変重要である。英語によるプレゼンテーションやディスカッションの方法を知り、講師やグループ内でのコミュニケーションを取りながら、実際にそれらを体験するということを主眼におき、本セミナーを2回実施した。

(2) 研究開発の経緯

少人数の4クラスに分かれ、第1回目はフィリピン、アイルランド、ウガンダ、韓国、第2回目はニュージーランド、ベトナム、トルコ、ルーマニア出身の講師より、前半はその国のことや講師自身の紹介を聞き、後半は1年生はプレゼンテーション準備、2年生は自分たちの意見についてディスカッションを行い、それぞれ最後に全体の場で発表した。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は英語コミュニケーション力や外国文化への興味・関心などの「国際性」を促すことが出来る。

イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH英語
 対象生徒 普通科1, 2年生徒
 第1回26名、第2回29名
 日時場所 12月3日(土)、
 1月21日(土) 本校



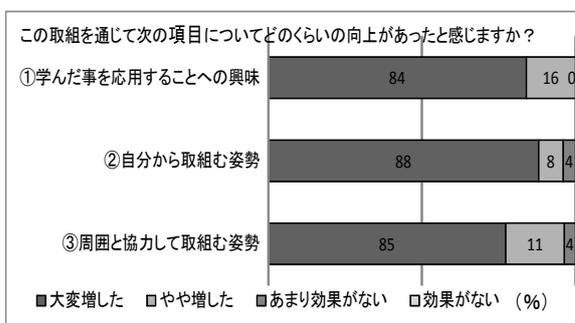
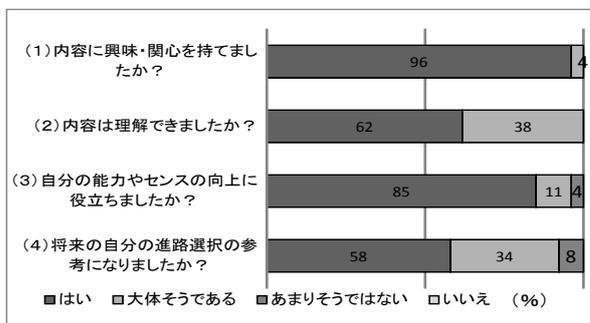
実施内容

講義 「Seminar for Intercultural Communication
 —他国の実情を知り、英語で他者と共有する—」

講師 コスモペース株式会社 Kazushi Muir, Reginald Salonga 他6名

内容 クラスごとに講師の指導を受けながらプレゼンテーション作成やディスカッションをし、全体の場で、発表し質疑応答をする。

ウ 検証（成果と反省） ※掲載は第1回のアンケート結果のみ



アンケート結果や感想から、参加者は異文化について知ること、日本についての理解もより深めることができるということを実感することができたようだ。また、英語によるグループプレゼンテーションやディスカッションを行ったことも大変良い機会となった。1年生は短時間で「伝わるプレゼンテーション」を仕上げることができたという成功体験ができた。2年生も日本や海外の文化をもっと知り、英語で伝えられるようになりたいという今後の学習への意欲がさらに増したことが窺える。